



9/6

## 1拠点化で業務スタート



テープカットをする関係者

J Aガスセンター新発式を新店舗で行いました。新設したガス貯蔵庫の完成と新事務所での業務スタートを祝いました。エネルギー事業の1拠点化による事業の効率化に取り組み、さらには保安・保全への万全な体制整備と普及に取り組んでいきます。

9/8

## 米の適正検査誓い出発式



米の等級を判定する農産物検査員

令和3年産米の初検査を管内の米倉庫2カ所で行いました。検査に先立ち安全祈願が行われ、米袋から採取した米を皿にのせ整粒歩合や被害粒の有無などを確認し等級を判定しました。検査した4520袋が全量1等に格付けされ、幸先の良いスタートとなりました。

9/17

## 3年産米全量1等で発進



農産物検査員の任命を受ける千葉太一さん

農産物検査員出発式を開きました。令和3年産米の検査に先立ち、検査員53人に任命書が交付され、適正な検査業務を行うことを誓いました。また長年、検査員として従事し勇退した畠山比佐夫さん(室根)と渡辺晃さん(千厩)に感謝状と記念品が贈られました。

9/9

## 比較栽培で導入品種検討 J Aきゅうり部会



出荷前の注意点など確認する生産者

リンゴ早生種収穫指導会を管内3会場で開きました。春先の凍霜害で奇形果やサビ果の発生がみられるため天候被害果の収穫や出荷時の注意点を確認しました。J A園芸課の村上廣美職員は「コンテナに入れる前に荒選果をしてほしい」と呼び掛けました。



成り具合など確認する部会員

夏秋キュウリ現地品種視察会を佐藤実部会長の圃場で開きました。夏秋露地作型の慣行品種と3種類の試作品種の栽培比較により令和4年産以降の品種導入を検討します。J A園芸課の渋谷光職員は「検討会を開きながら導入品種を絞っていきたい」と話しました。

将来を見据え  
 行政に要請

J Aは、一関・平泉地域での持続する米づくりに向けた要請5項目と凍霜害による果樹樹木への被害に関する要請3項目を一関市と平泉町に行いました。主に令和4年産以降の主食用米への価格対策や米保管施設の老朽化による倉庫新設にかかる助成などを支援要請しました。

9/15



一関市に要請書を手渡す佐藤鉱一組合長とJA果樹部会小岩克宏部会長⑥



情報交換する若手生産者

JAピーマン部会  
 若手生産者グループ「ハッピーまん」は優良生産者圃場視察研修を管内2会場で開きました。生育状況を確認しながら栽培技術などの情報交換を行いました。担当手グループの岩瀬美香リーダーは「情報交換は参考になる。お互いに技術を高め合いたい」と話しました。

栽培技術の向上を目指して  
 JAピーマン部会



無人作業機の実演を観察する参加者

最新機械実演に興味津々  
 担い手班「フルーツちゃんねる」管内研修を2会場で開きました。

今年7月に販売が開始された無人作業機の実演やモモとナシの園地を視察し、情報交換しました。無人作業機は人工授粉に活用できるとし「来春にも実演してほしい」との要望が出されました。

JA果樹部会担い手班



レシピを考えし弁当完成

JAハートフル東山支部  
 第11回「あなたに届けるJA健康寿命100歳弁当」コンテストの応募作品の作製を行いました。会員が考案したレシピの中から、白米と8種類のおかず入り弁当に決め、「げいびフレッシュ弁当」と名付けて「5色を食べて達者が一番」部門に応募しました。



ダイコンの種まきをする女性部員

収穫楽しみに種まき作業  
 JA女性部平泉中央支部

ダイコンの種まき作業を行いました。参加した部員12人が畠立て、マルチ張りをした後、種をまきました。太く立派なダイコンが収穫できるよう願いながら作業を行いました。8月に種をまいたニンジンの除草や間引き作業も合わせて行いました。

9/10

## オリジナルTシャツ完成 JA酪農部会



かわいいデザインに仕上りました

令和3年度事業の一環でオリジナルTシャツを作製しました。生産意欲の向上を図り、イベントや部会事業で着用し活用します。千葉秀一部会長は「1日も早くコロナが収束し、共進会の参加や牛乳の消費拡大イベントを活発に取り組みたい」と期待を寄せました。

9/7

## 栽培振り返り播種前指導



土の状態を確認しながら指導

ピーマン現地指導会を管内8会場で開きました。9月以降の栽培管理のポイントや病害虫対策などを確認し、長期安定出荷を目指します。一関農業改良普及センターの船渡結技師は「灌水や追肥、整枝などで後半までの草勢維持に努めてほしい」と呼び掛けました。

8/31

## 後半の栽培管理しつかり JAピーマン部会



栽培管理の説明を聞く生産者

J A 西部営農振興センターで開きました。令和3年産の栽培を振り返り、課題となつた雑草や赤かび病の適期防除の徹底、石灰質資材の施用による酸性土壤回避などを確認し、令和4年産の良品質小麦の生産に向け意識統一を図りました。

9/2

## 元気はつらつプレー満喫



藤沢ライスセンターを見学する児童

3年生12人は社会科の授業で、地元農家の大住正樹さん（藤沢）のミニトマトの圃場と藤沢ライスセンターを見学しました。ミニトマトの収穫時の色についての説明に関心を寄せていました。千葉千鶴さんは「お米の量がたくさんあつて驚いた」と話しました。

9/24

## 地域の農業に理解深める 黄海小学校（藤沢）



狙いを定めてボールを打つ選手

第35回JAいわて平泉東山営農経済センター長杯ゲートボール大会が東山町松川西前コートで開かれました。6チームが参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。優勝は長坂・柴宿チームが輝き、上位入賞チームには小野敦志センター長より副賞が贈られました。

中生種収穫指導会を管内3会場で開きました。中生種の品種ごとの収穫時の注意点や荷受け体制などを確認しました。また、一関地域オリジナル品種「恋ふじ」の園地視察会を小山建悦さん(大東)の圃場で行い生育状況を見学し栽培管理を共有しました。

9/2

適期収穫で良品質  
出荷を



#### 「森ふじ」の生育状況を確認する生産者



刈り取った稲をはせ掛けする児童

5年生39人は、三室性部の指導で、5月に植えた「こがねもち」の稻刈りを行いました。岩渕興斎くんは「刈つた稻をそろえて束ねるのが難しかった。今は機械があるけど昔はすべて手作業で、人手が少ないと大変だと思つた」と話しました。

9/24

# 米作りの苦労感じ稻刈り

東山小学校



## 新梢管理について確認する生産者

加工モモ収穫後管理指導会を管内2園地で開きました。令和3年産加工モモ出荷は、病害虫被害が少なく品質が良好で上位等級中心の出荷となりました。来年産に向け、新梢管理や病害虫防除、ハクビシンなどの害獣対策施肥などの管理作業を確認しました。



### キュウリの選果を見学する児童

3年生21人はJ.A東部園芸センターを訪問し、キュウリの選果作業などを見学しました。小野寺通匡センター長が管内の園芸センターから出荷している農作物や機械を使って選果していることを説明。児童は巨大な冷蔵庫に驚きながら施設の役割について学びました。



### 手鎌で刈り取る児童

5年生16人は学習田「ぴかぴか田んぼ」で稲刈り体験を行いました。地元農家で構成する耕作支援隊や黄海老人クラブの指導で、「こがねもち」の稻を手鎌で刈り、ホニオに掛けました。鈴木嵐くんは「束ねるときにしつかり縛るのが難しかった」と話しました。

9/17

# こんなに成長したんだね



### キュウリの選果を見学する児童

3年生21人はJ.A東部園芸センターを訪問し、キュウリの選果作業などを見学しました。小野寺通匡センター長が管内の園芸センターから出荷している農作物や機械を使って選果していることを説明しました。